

● 世界の主な地震

令和 8 年（2026 年）8 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

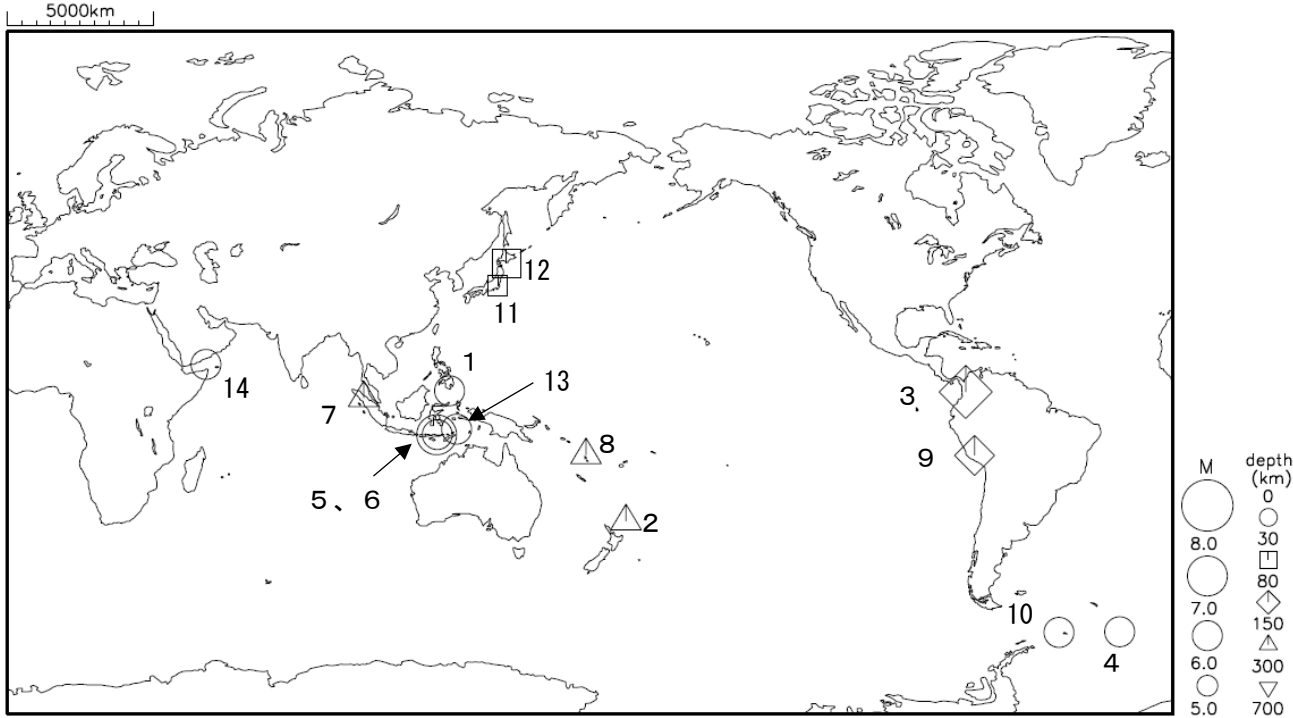


図 1 令和 8 年（2026 年）8 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 令和 8 年（2026 年）8 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	08月05日13時14分	N 5° 11.9′	E125° 18.8′	10			6.3	フィリピン諸島、ミンダナオ	津波観測0.1m（タレンゲン、インドネシア）（2026年9月2日現在）		
2	08月05日16時43分	S33° 48.3′	E179° 28.3′	226			6.3	ケルマデック諸島南方			
3	08月10日21時34分	N 4° 50.6′	W 76° 14.5′	108			(7.4)	コロンビア	死者329人、負傷者4,500人など（2026年8月28日現在）		○
4	08月12日20時47分	S60° 14.6′	W 28° 59.3′	10			6.0	サウスサンドウィッチ諸島			
5	08月15日06時58分	S 8° 18.6′	E121° 21.1′	10			(7.7)	インドネシア、フローレス	死者68人、負傷者213人など（2026年8月18日現在） 津波観測1.61m（レオ）など（2026年9月2日現在）		○
6	08月15日07時28分	S 8° 19.1′	E121° 34.3′	10			6.1	インドネシア、フローレス			
7	08月15日19時54分	N 2° 59.1′	E 98° 59.1′	175			6.9	インドネシア、スマトラ北部			
8	08月16日12時20分	S14° 32.8′	E167° 11.6′	188			6.1	バヌアツ諸島			
9	08月21日03時00分	S14° 38.4′	W 73° 31.4′	99			6.7	ペルー中部			
10	08月22日17時22分	S60° 22.7′	W 47° 36.2′	10			6.2	スコシア海			
11	08月23日02時00分	N36° 00.0′	E140° 05.8′	68		5.9	(5.8)	茨城県南部	負傷者38人、住家一部破壊2棟など（2026年8月31日現在）		
12	08月23日22時44分	N41° 47.0′	E142° 52.4′	41			6.0	(6.0) 浦河沖			
13	08月24日23時10分	S 6° 37.5′	E127° 27.5′	10			6.0	バンダ海			
14	08月28日06時07分	N13° 15.9′	E 50° 32.5′	10			6.0	アデン湾			

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Search Earthquake Catalog” (<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による（2026 年 9 月 7 日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは気象庁による。Mw の欄に下付きで「G」を付して記載したモーメントマグニチュードは、Global CMT による。

・地震の被害は、2026 年 8 月 23 日 茨城県南部の地震については総務省消防庁（2026 年 8 月 31 日現在）、それ以外の地震は OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所、2026 年 9 月 1 日現在)による。

・地震発生時刻は日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9 時間〕である。

・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）（※）を発表したことを表す。

※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」（<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/nwpta.html>）参照。

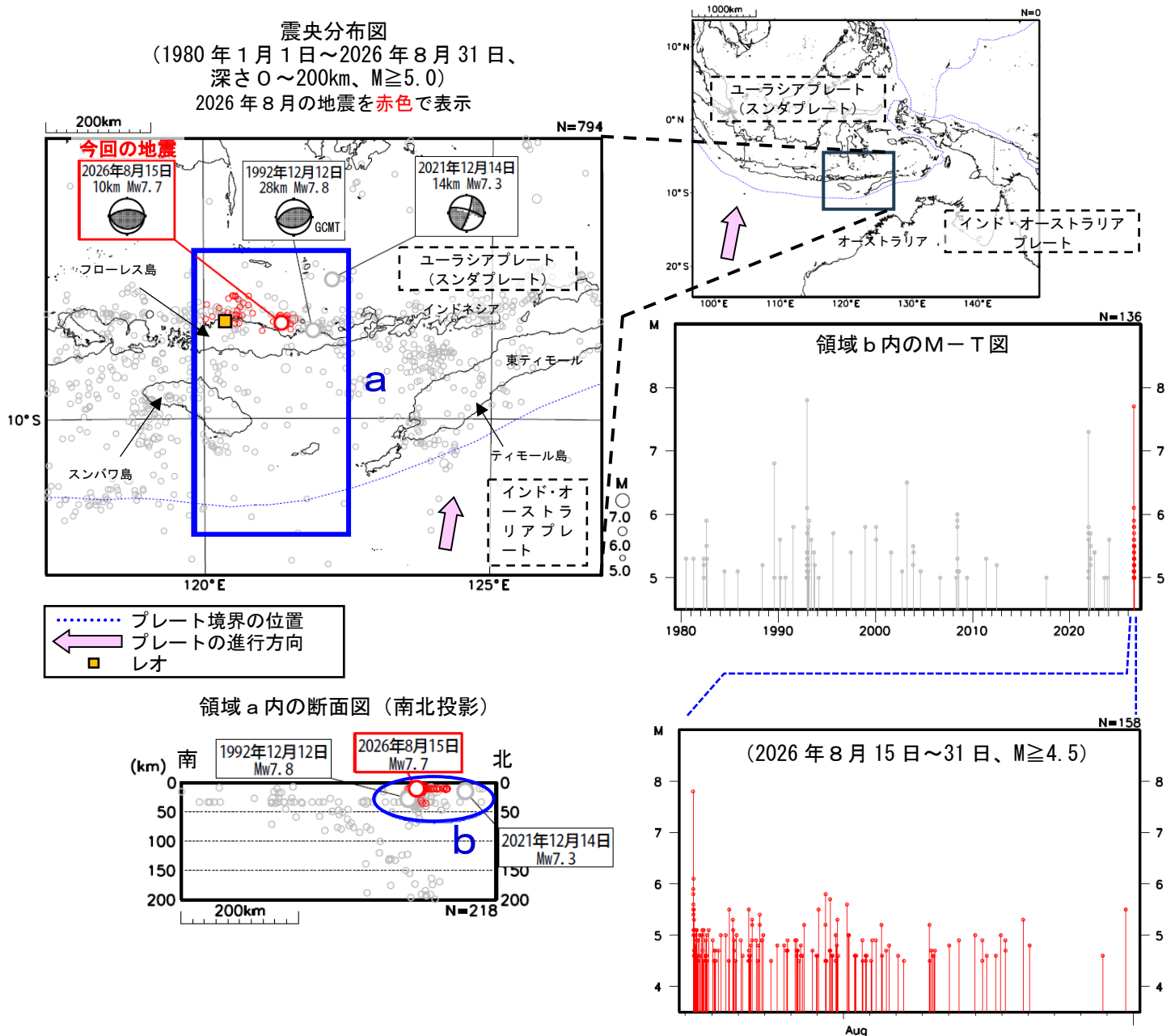
・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

・海外の津波の観測値は、米国海洋大気庁(NOAA; National Oceanic and Atmospheric Administration)による（2026 年 9 月 2 日現在）。

8月15日 インドネシア、フローレスの地震

2026年8月15日06時58分（日本時間、以下同じ）にインドネシア、フローレスの深さ10kmでMw7.7（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震はユーラシアプレート（スンダプレート）内部で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型である。気象庁はこの地震に対して、8月15日07時29分に遠地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。この地震により、レオ（インドネシア）で1.61mなどの津波を観測した。この地震により、死者68人、負傷者213人などの被害が生じた（2026年8月18日現在）。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）ではM6.0以上の地震が時々発生している。今回の地震の東側では、1992年12月12日にMw7.8（MwはGlobal CMTによる）の地震が発生し、死者1,740人、負傷者2,144人などの被害が生じた。



※震源要素は米国地質調査所(USGS)による(2026年9月2日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震のMw及び発震機構については、2021年12月14日の地震と今回の地震は気象庁によるCMT解、1992年12月12日の地震はGlobal CMTによる。津波の高さは米国海洋大気庁(NOAA)による(2026年9月2日現在)。地震の被害は、今回の地震の被害はOCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所)、それ以外の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置とプレートの進行方向はBird(2003)*より引用。

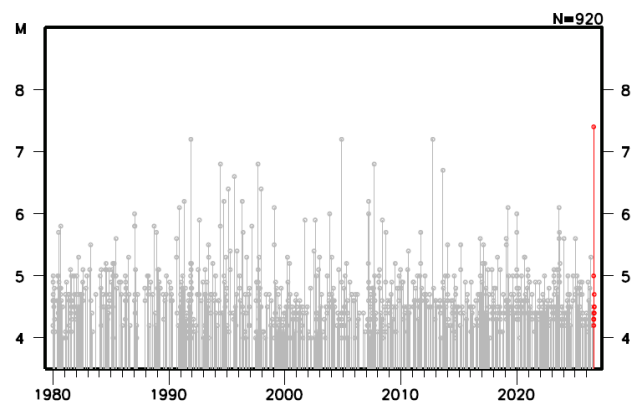
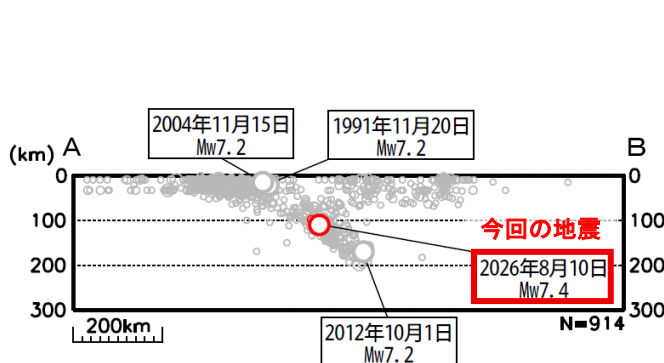
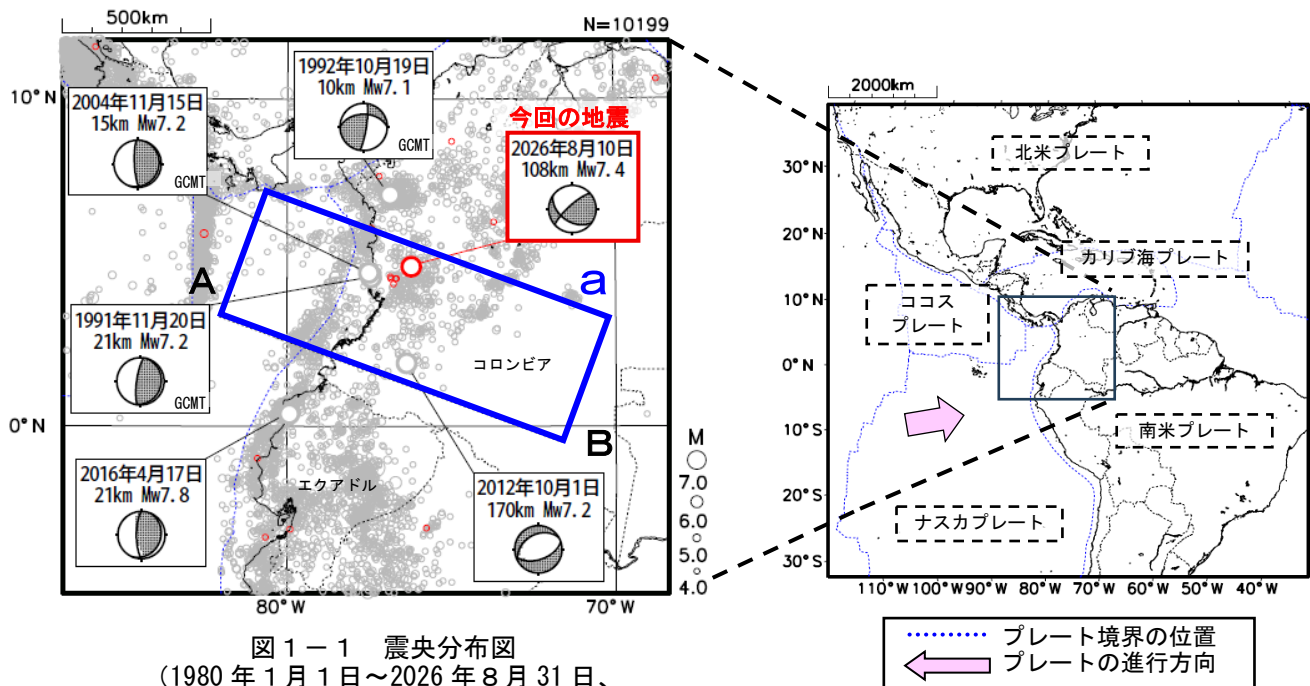
*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

2026年 8月10日 コロンビアの地震

(1) 概要及び最近の地震活動 (注1)

2026年 8月10日21時34分 (日本時間、以下同じ) にコロンビアの深さ108kmでMw7.4 (Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード) の地震の地震が発生した。この地震は、発震機構 (気象庁によるCMT解) が東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、南米プレートの下に沈み込むナスカプレート内部で発生した。気象庁はこの地震に対して、同日22時02分に遠地地震に関する情報 (日本への津波の心配なし) を発表した。この地震により、コロンビアで死者329人などの被害が生じた (2026年 8月28日現在)。

1980年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域a) ではM6.0以上の地震が時々発生しており、ナスカプレート内部では、2012年10月1日にMw7.2 (Mwは気象庁による) の地震が発生している。また、震源の深さの浅い、ナスカプレートと南米プレートの境界では、1991年11月20日にはMw7.2 (MwはGlobal CMTによる) の地震が発生し、死者2人などの被害が生じた。また、2004年11月15日にもMw7.2 (MwはGlobal CMTによる) の地震が発生し、負傷者14人などの被害が生じた。



(注1) 震源要素は、米国地質調査所 (USGS) による (2026年 9月1日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震の発震機構及び Mw のうち、2012年 10月1日の地震及び 2016年 4月17日の地震並びに今回の地震は気象庁による CMT 解、それ以外の地震は Global CMT による (2026年 9月1日現在)。今回の地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、その他の地震の被害は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。
プレート境界の位置とプレートの進行方向の位置は Bird (2003)*1 より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries. *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

(2) 発震機構 (注2)

1980 年以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の張力軸の分布を図 2-1 に示す。また、図 2-1 の領域 b 内の地震の発震機構の型の分布及び張力軸の向きの分布を図 2-2 に示す。

今回の地震の震央付近（領域 b）の発震機構の分布をみると、ナスカプレートの傾斜方向（概ね東西方向～西北西～東南東方向）に張力軸を持つ地震が多く発生している（図 2-1）。今回の地震の発震機構（気象庁による CMT 解）は、東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

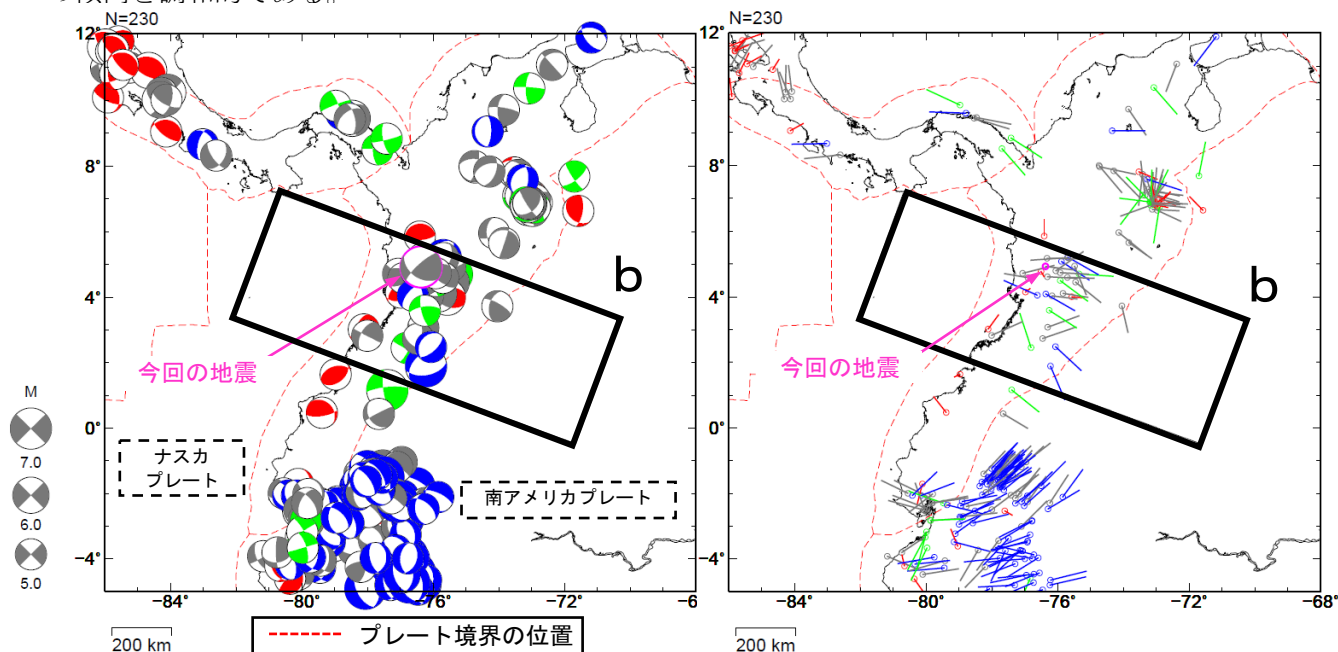


図 2-1 発震機構分布図（左）、発震機構の張力軸の分布（右）

(1980 年 1 月 1 日～2026 年 8 月 31 日、深さ 50～300km、 $M \geq 5.0$)

逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示 (Frohlich (2001) による分類)。

ピンク色の丸囲みで表示している地震は今回の地震

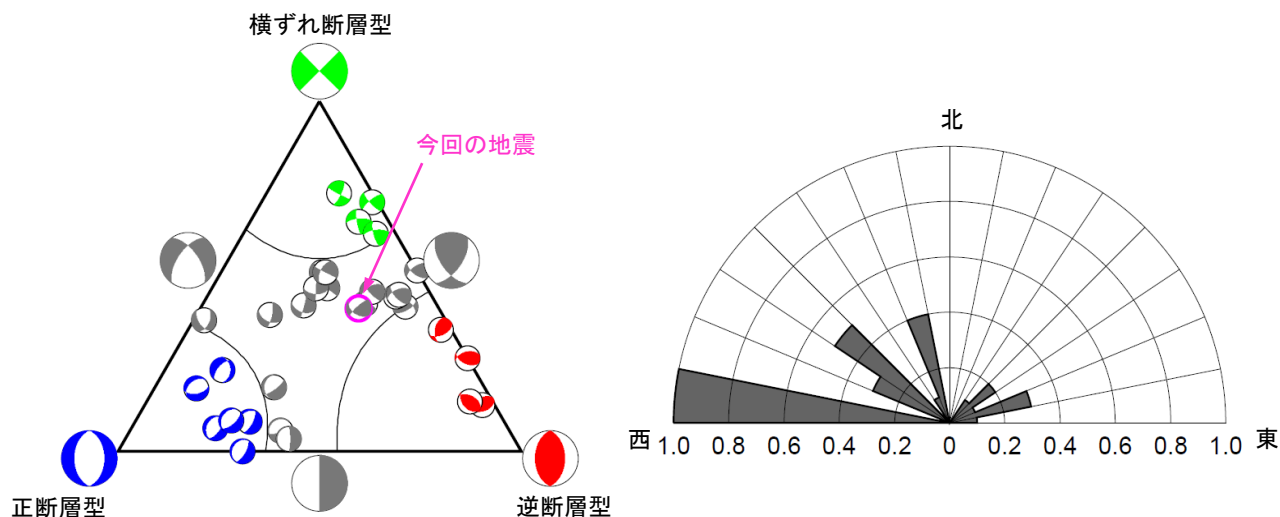


図 2-2 図 2-1 の領域 b 内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の張力軸の方位分布（右）

(1980 年 1 月 1 日～2026 年 8 月 31 日、深さ 50～300km、 $M \geq 5.0$)

逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示 (Frohlich (2001) による分類)。

ピンク色の丸囲みで表示している地震は今回の地震

(注2) 震源要素及び発震機構は、2026 年 8 月 10 日の地震は気象庁による CMT 解、それ以外の地震は Global CMT による (2026 年 9 月 1 日現在)。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置は Bird (2003) *1 より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

(3) 過去に発生した主な地震 (注3)

1904 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M7.0 以上の地震が時々発生している。ナスカプレートと南米プレートの境界では、1906 年 2 月 1 日に M8.5 の地震が発生し、死者 1,000 人の被害が生じた他、コロンビアのトゥマコで 5m の津波を観測した。なお、この地震により日本の太平洋沿岸でも津波を観測し、和歌山県串本で 48cm（全振幅）の津波を観測している。また、2016 年 4 月 17 日にも Mw7.8（Mw は気象庁による）の地震が発生し、死者 660 人、負傷者 51,376 人などの被害が生じた。

沈み込んだナスカプレートの内部では、1922 年 1 月 17 日に M7.9 の地震、1970 年 8 月 1 日に M8.0 の地震、2019 年 5 月 26 日に Mw7.9（Mw は気象庁による）の地震など、M8.0 前後となる地震もしばしば発生している。

図 3-1 震央分布図

(1904 年 1 月 1 日～2026 年 8 月 31 日、
深さ 0～700km、M≥6.0)

2026 年 8 月の地震を赤く表示。

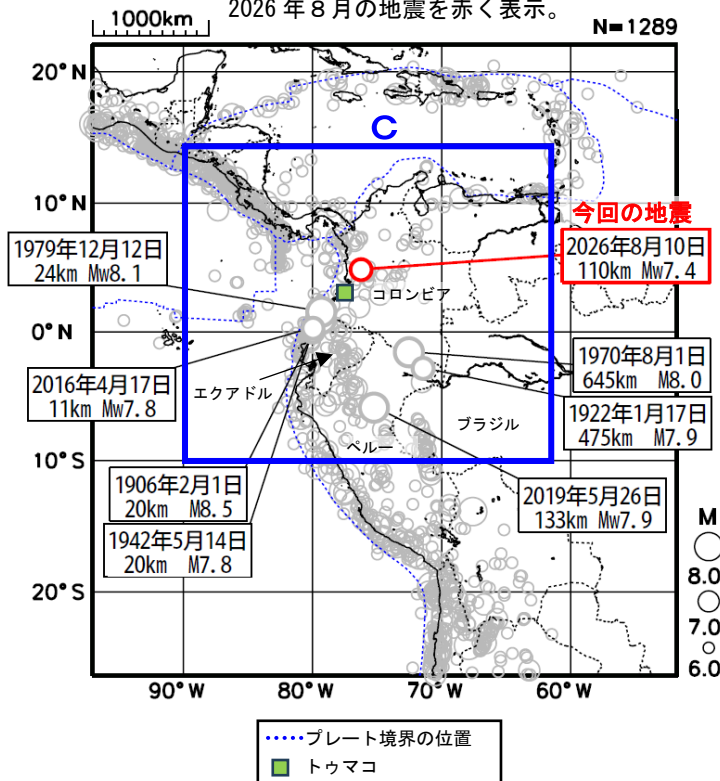
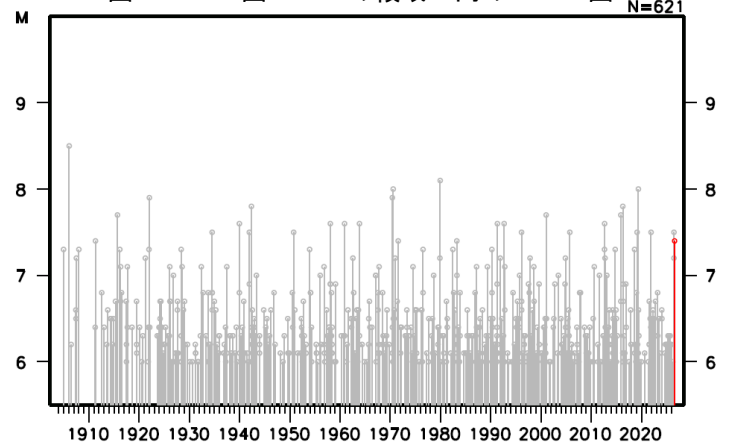


図 3-2 図 3-1 の領域 c 内の M-T 図



(注3) 震源要素は、2021 年までは ISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022 年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2026 年 9 月 1 日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震の Mw のうち、2016 年 4 月 17 日の地震及び 2019 年 5 月 26 日の地震並びに今回の地震は気象庁によるモーメントマグニチュード、それ以外の地震は Global CMT によるモーメントマグニチュードである。地震の被害は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置は Bird(2003)*¹ より引用。

*¹ 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.